



考 動

川西市立東谷中学校
学校便りNo.11 (01.10.31)

発行者 校長 足立 仁志

文化祭「仲間と作った思い出の1ページ」

3年生 合唱

ある日の夕方、出張から学校に戻ってくると、校舎内から元気の良い歌声が聞こえて来ました。3年生が合唱の練習をしていたのです。歌声を聞くだけで、一生懸命練習をしていることが伝わってきました。その時、「私も頑張ろう！」と思いました。

私のような年になっても気がかりなことや悩みはあるもので、時には気分が重苦しい時もあります。文化祭の活動時間になると聞こえてくる歌声は、いつも私を勇気づけてくれました。学年文化祭の合唱では、各学級が見事なまでに練習の成果を発揮していました。特に表現方法はよく工夫されていました。みんなが気持ちをひとつにして何度も何度も練習しなければいけないことだと感じました。また、各パートがよく調和し、声がひと固まりになって聞こえて来るようでした。

文化祭の直前には学年の先生たちから、昨年と比較して成長しているところをほめてもらっていました。特に、「今年は何も言わなくても全て自分たちでやっている」と話す、担任の先生の言葉が印象的でした。

今年の3年生から、これまで「3大行事」と呼んできた行事が一つなくなりました。寂しい思いをしている人や、「なぜ自分たちから」と思っている人もいるかもしれません。折しも今年「平成」から「令和」に変わった年でもあります。東谷中学校の新しい歴史は今年の3年生から始まります。新たなスタートにふさわしい素晴らしい合唱、素晴らしい学年集団だと思いました。



2年生 演劇

学年文化祭で演劇を鑑賞させてもらい、感心させられたことがありました。もちろんキャストの人たちの苦労や本番での緊張は並大抵のものではなく、それを克服したことは立派だと思います。しかし、それだけではなく、キャスト以外の係りの人たちも、取組の成果を十分に発揮していたことが素晴らしいと思いました。大道具、小道具、音響、照明など、それぞれの役割は違っても、互いに協力し合って劇をつくり上げていました。どの学級も道具類や当日の照明・音響が、よく工夫されていました。キャストの人の個人技だけに頼るのではなく、その他の人たちも、場面づくりにしっかりと加わっていました。学級に貢献するためにはどうすれば

よいかを「自ら考え行動した」結果だと思っています。文化祭の活動を通して主体性を育んだことは、今後に向けての大きな収穫になったと思っています。

1年生 展示

1年生にとっては初めての行事で、計画的に取り組むことは難しかったかもしれません。活動の様子を見ながら、文化祭当日までに展示物が完成するのか心配していました。多分、直前3日間のラストスパートがなかったら、完成しなかったクラスもあったのではないのでしょうか。そのことを考えると、1年生は「底力」を持っている学年だと言えます。

出来上がった展示は、どれも手作り感たっぷりの心温まる作品ばかりでした。教室に入った瞬間、心躍るような楽しさがありました。

自分たちが作った展示を見て、「学級のまとまり」を感じた人は多かったのではないのでしょうか。それは、学級のために協力したからこそ得られた感覚だと思っています。

みなさん一人ひとりにとってこの文化祭は、「思い出の1ページ」になったことと思います。できればそれをしまい込んでしまうのではなく、時々そのページを開いて思い出すようにしてください。みんなで一つの目標に向かって協力し合うことは、素晴らしい経験や思い出になるのです。普段の生活でも、それができる集団であってほしいと思います。

ユニバーサルデザインの学習環境づくり

2学期に入り、体育祭、文化祭と大きな行事が続きました。体育祭では、猛暑の中での練習もあり、疲れがたまり、その後の授業に影響が出たかもしれません。また、文化祭では、教室内に展示物や大道具が置かれ、授業に集中しにくい状態になることもありました。そんな時、みなさんはどうでしたか。気持ちをうまくコントロールできたでしょうか。この集中が「できる・できない」は人によって違いがあるのです。

「ユニバーサルデザイン」とは、できるだけ多くの人々が利用できるデザインにすることです。例えば、目に障害がある人がシャンプーとリンスの容器を間違えないように、シャンプーの容器には突起が着けられています。センサー式の蛇口は、握力の弱い人でも水道の水を出すことができます。最近では多くのものが、ユニバーサルデザイン化され誰にでも使いやすいように工夫されています。

東谷中学校では、この「ユニバーサルデザイン」を教室にも取り入れています。人によっては、視覚的な刺激（目に見えるもの）に反応しやすい人もいます。黒板の周りにいろいろな物がある（見える）だけで集中できなくなってしまう人がいるのです。そのため、黒板の上に物を置いたり、黒板の周りに掲示物を貼ったりすることは、最小限にとどめる必要があります。

音に対して敏感で、静かな環境でなければ集中して学習できない人もいます。話し合う場面でもないのに話し声が聞こえてくると困る人もいるのです。また、自分の周りのものが整理整頓され片付いていることは、自分のためにも周りの人のためにも大切なことなのです。

「授業のねらい」をわかりやすく示すことや、見やすい板書にすることなど、先生たちにも努力が求められています。

教室では、40人ほどの生徒が机を並べて一緒に学習しています。その中にはいろいろな個性を持った生徒がいます。大切なことは、教室を誰にとっても学びやすい場所にすることです。

みなさんの協力をお願いします。

